

## こども審議会からの評価・意見と市の考え方

第3期豊中市子育て・子育て支援行動計画「こどもすこやか育みプラン・とよなか」令和7年度（2025年度）事業実施状況に対するこども審議会からの評価・意見と市の考え方は以下のとおりです。

### 4. 重点施策の事業実施状況

#### 【重点施策2 子育てはみんなで～子育ての社会化～】（12 ページ）

##### 審議会委員からの意見

##### 生成 AI を活用した子育て相談チャットボット実証実験

- ・実証実験による利用実績の分析の結果、夜間・早朝・休日の利用の集中など、潜在的ニーズの顕在化が確認できたことは評価します。「今後の社会実装」は具体的にどのような取り組みかお聞かせください。

##### 市の考え方

約5か月間、市民の皆様に AI チャットボットを試行的に利用していただき、利用時間帯や満足度に関する調査を実施した結果、市役所閉庁後の夜間や深夜帯における相談ニーズが高いことに加え、AI チャットボットによる相談に対するストレスが低く、満足度も比較的高いことが確認されました。これらの結果を踏まえ、市ホームページ等を通じて利用できる AI チャットボットを構築し、本年11月頃の提供開始に向けて環境整備を進めています。本システムは単なる検索機能ではなく、相談者の気持ちに寄り添いながら課題を整理・分析し、状況に応じた解決策や行政サービスを提案するとともに、必要に応じて適切な相談窓口へ案内する相談支援機能を備える予定です。

#### 重点施策3 こどもとともに～こども自身による多様な参画～】（17、18 ページ）

##### 審議会委員からの意見

##### こどもヒアリング・出張ヒアリング、意見表明等支援事業

- ・自治体がこどもの声を聴く取り組みについて、これまでも積み重ねてきたことかと思いますが、こども発意のヒアリングを新たに開始されたり、社会的養育の意見表明等支援が開始されたり、こどもが声を発しやすい環境が拡充されたことについて評価します。意見が反映された事例が報告書及び概要版に記載され、実現したことが意見を表明したこども本人に伝わることは良いと考えます。

##### 市の考え方

こどもが安心して意見を表明できる環境づくりを進めるため、市職員がこどもにとって身近で安心して話することができる場所に出向き、意見を聴く取り組みを実施するとともに、効果的な実施手法について引き続き検討します。また、こどもからいただいた意見については、こども自身に分かりやすく伝えるフィードバックに取り組み、こどもの主体的な社会参加の促進につなげます。

## 5. 施策の柱ごとの事業実施状況

### 【施策の柱1 子育て支援】(20 ページ)

#### 審議会委員からの意見

##### 公立こども園で有償ボランティア開始

- ・公立こども園での実施について、民間を含めた市全体の保育士人材確保にもつながる活動であると評価します。保育士人材確保においては、中学生・高校生の時期から保育士のやりがいを知る機会を増やすなど、保育士の養成校への進学を推進するにはこういったアプローチができるかが重要だと考えます。

#### 市の考え方

保育人材の確保においては、中学生・高校生の段階から保育の仕事に興味や関心を持ってもらうことが重要であると考えております。職業体験や有償ボランティアなど、実際にこどもと関わる機会は、保育のやりがいや魅力を知る貴重な機会になるものと認識しております。今後も学校等との連携を図りながら、どのように保育の魅力を発信できるか、検討していきます。

### 【施策の柱1 子育て支援】(22 ページ)

#### 審議会委員からの意見

##### 午前7時からの小学校見守り事業

- ・付き添い保護者の要件の緩和とありますが、具体的に変更した内容と反響をお聞かせください。

##### 放課後等の児童の居場所づくり事業（校庭で遊ぼう！）

- ・こどもたちがその日に集まって遊ぶなどの突発的なニーズに対応でき、こどもたちの自由な遊びを後押しできるよう、全小学校で当日申込対応できると良いと考えます。

#### 市の考え方

##### 午前7時からの小学校見守り事業

令和7年4月1日よりおおむね午前7時30分以降に自宅を出る場合は、付添いを不要にしています。（ただし新1年生は1週間程度の付き添いのお願いをしています。）緩和することにより、通勤時間の都合等で付き添いが困難であった家庭も利用しやすくなり、利用人数も令和6年度と比較すると増加しています。

##### 放課後等の児童の居場所づくり事業（校庭で遊ぼう！）

本事業は学校ではなく教育委員会による事業のため、学校が保持しているものとは別に緊急連絡先を入手しておく必要があり、令和7年度までは事前の登録を必要としておりました。令和8年度からは、保護者の負担軽減のため、電子申込システムを活用し緊急連絡先の登録を一元化したため、教育委員会が直接連絡先を入手することができ、事前の登録は不要となりました。

## 7. ～11. 個別計画

### 【9. こどもの未来応援施策の推進】(47、48 ページ)

#### 審議会委員からの意見

#### 生活保護世帯児童・若者の支援に向けた早期の連携について

- ・生活保護世帯児童の高校進学率、大学進学率が近年減少傾向になっています。生活保護世帯の若者への支援が30代以上まで継続している実情があるため、できるだけ10代までのタイミングで部局の垣根を超えて自立支援に向けた対策をする必要があると考えます。

#### 市の考え方

進学状況の減少について、個別世帯によって理由は様々ではありますが、福祉事務所では、貧困の連鎖を防ぐことを目的として支援しており、現在こども支援担当ケースワーカーを配置し、特に中2、中3、高1を重点的にケアしています。こどもに対しては進路相談等対話の機会を設け、保護者に対しては奨学金申し込みの案内などを行うほか、個別世帯のこどもの状況に応じて各学校と連携しながら取り組んでいます。

くらし支援課では、多様で複合的な課題を有する若者や家族からの相談に対応するため、若者支援総合相談窓口を設置しています。また、生きづらさを抱えた高校生世代のこども・若者のための居場所も設置しています。両事業とも、関係部局と連携した支援を行っており、生活保護世帯の若者に関しても連携した支援を行っています。

生活保護世帯については課題が複雑、複合的であるため、今後も引き続き関係部局と連携し、自立までの切れ目のない支援に取り組んでいきます。

### 【10. 若者自立支援計画】(49～51 ページ)

#### 審議会委員からの意見

#### 若者のセルフ・ネグレクトについて

- ・近年、若者のセルフ・ネグレクトの問題に関心が高まっており、今後注意をすべき課題であると考えます。高齢者の孤立・孤独関連でのセルフ・ネグレクトは注目されていますが、若者については社会とのつながりを持ちつつも、セルフ・ネグレクト状態にあるといった様相があり、一層発見が難しい状況になっています。今後は若者支援の枠組みの中でセルフ・ネグレクトへの支援も求められるようになっていくと考えます。

#### 市の考え方

多様で複合的な課題を有する若者や家族からの相談に対応するため、若者支援総合相談窓口を設置しています。セルフ・ネグレクト等、若者の社会的孤立、孤独に関しましても、早期に発見、支援へつなげる取組が必要であると考えています。

予防的な取組、早期発見の取組といたしまして、若者や保護者、支援者などが若者支援総合相談窓口へつなげるために、中学校3年生や高校2年生世代へ相談窓口のチラシの配付等を実施しています。早期支援につきましては、引き続き相談窓口や関係機関とのネットワークを生かした支援を行っています。

## 【10. 若者自立支援計画】(49～51 ページ)

### 審議会委員からの意見

#### 若者の声の大人へのフィードバックについて

- ・できるカンパニーの参加者数や、若者支援総合相談窓口の相談対応件数も増加しており、若者世代の相談場所も増えてきていると感じていますが、若者の悩みは複雑化・複合化しているため、若者の声を周りの大人たちにフィードバックするような機会があれば良いと考えます。

### 市の考え方

社会生活を円滑に営むうえでの困難を有することも・若者に対し、連携した支援を行うことを目的とした子ども・若者支援地域協議会を設置しています。

複雑化・複合化している若者支援の現場での課題につきましては、子ども・若者支援地域協議会にて、共有しています。

## 【11. 社会的養育推進計画】(54 ページ)

### 審議会委員からの意見

#### こどもの障害特性の的確なアセスメントについて

- ・アセスメントした情報をしっかりと関係する支援者に連携し、こどもが施設入所者や里親委託になった後についても、課題や当時のアセスメント状況を共有することで、さらなる支援が可能になると考えます。

### 市の考え方

豊中市児童相談所では、一時保護も含むアセスメント機能を活用しながら、措置前のアセスメント内容について児童養護施設等と直接情報共有を行うなど、切れ目のない支援に取り組んでいます。今後も、施設入所後や里親委託後の支援に必要な情報が適切に引き継がれるよう、関係機関との連携を継続してまいります。

## 14. 豊中市の子育ての現状

### 出生数・死亡数の推移(81 ページ)

### 審議会委員からの意見

- ・出生数減少に対応するための施策がまだまだ不足していると感じます。若い世代がこどもを産み育てようと思える施策に重点的な取り組みが必要と考えます。

### 市の考え方

若い世代が希望に応じて結婚・妊娠・出産し、安心して子育てができるよう、子育て支援や仕事と子育ての両立支援などを総合的に推進していくことが重要であると考えています。

また、高校生を対象にした乳幼児との交流会や子育てをしながら働く方のお話を聞く講座の開催等、乳幼児とのふれあいや子育ての楽しさや意義を学べる機会の提供を通じて、将来のライフデザインや子育てについて考えるきっかけづくりに取り組んでいます。